

Title	口臭治療に携わって40年
Author(s)	角田, 正健
Journal	歯科学報, 110(4): 484-484
URL	http://hdl.handle.net/10130/1984
Right	

講演抄録

特別講演 1

口臭治療に携わって40年

東京歯科大学千葉病院総合診療科教授 角田 正健

本学における口臭に関する研究は、昭和40年代の初頭に「歯槽膿漏（歯周病）の患者は臭い、この臭いは何か究明しなさい」と命じた木村吉太郎教授の一言から始まっている。以来、口臭の研究は歯科保存学第二講座（現 歯周病学講座）の青木、角田、海津、佐藤、大串、森山によって引き継がれ、その研究成果はそれぞれの学位論文となり、歯学博士の称号を受けている。口腔内臭気の主体は揮発性硫黄化合物（VSC）であり、少量の口腔内気体を分析することで、口臭の程度を客観的に評価することが可能となった。

歯科口腔疾患なかでも歯周病による臭気の主体は、VSCのメチルメルカプタンであり、口臭の強度と高い相関を示している。歯周治療により歯周組織の炎症が消退するにつれて、口臭レベルは軽減する。私たちは以前から、紹介により口臭患者の診断と治療を行っていたが、平成13年には千葉病院専門外来の先陣を切って保存科内に口臭外来を開設している。以来、10年目の平成22年8月現在で2,076名の患者が口臭外来を受診している。

口臭に悩む患者は、一刻も早く悪臭から解放されたいと願っており、そのため様々な消臭グッズが使用されている。それらには香料によるマスキング効果、若干の抗菌効果、消臭素材による消臭効果などが期待されているが、実際の効果はまちまちである。我々は、銅クロロフィリンナトリウム、フロボノイド、カテキン、各種ハーブオイルなど、消臭素材の効果判定も数多く行っている。

口臭患者を担当しているとその病態は様々である。検査結果に安心される方、臭気が検出されその原因究明と治療が必要な方、臭気が検出されないにも拘わらず口臭に悩む方など口臭患者も一様ではない。口臭への我々の取り組みは、“歯周病患者の臭気は何か”で始まってきたが、今では“口臭患者への対応は如何に”へと変化している。したがって口臭の分類も、臭気の分類と疾病の分類（口臭症）に分かれつつある。

今後は、患者のメンタル面への対応が重要と考えられる。現在口臭外来でも、様々な口臭患者に対応するために、TEG（東大診療内科のエゴグラム）を用いて患者の性格特性の把握に努めている。更に望むならば、患者への肉体的侵襲がまったくない呼吸を採取・検査することにより、その臭気から疾病を診断することが可能となる夢の実現である。

《プロフィール》



＜略歴＞

1971年3月 東京歯科大学卒業
 1975年3月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了
 歯学博士の学位受領（東京歯科大学）
 1975年4月 東京歯科大学助手（歯科保存学第二講座）
 1976年4月 東京歯科大学講師（歯科保存学第二講座）
 1986年4月 日本歯科保存学会理事（1989年3月まで、
 2009年4月から現在）
 1990年5月 日本歯周病学会認定医（第78号）
 1991年4月 東京歯科大学助教授（歯科保存学第二講座）
 1992年4月 千葉県健康福祉部保険指導課 指導監査専門医

現在に至る
 1992年5月 日本歯周病学会指導医（第50号）
 現在に至る
 2003年6月 東京歯科大学教授（歯科保存学第二講座）
 2005年4月 東京歯科大学教授（総合診療科）
 現在に至る
 2009年4月 日本口臭学会会長
 現在に至る

＜著書＞

1. サヨナラお口の臭い、第1版第4刷、医歯薬出版、2004.
2. 人気の専門外来を知るガイド -口臭外来-（著分担）、82～94、三省堂、2004.
3. 絵で見る家庭の医学事典 歯・口腔の病気と上手な付き合い方（著分担）、140～145、三省堂、2005.
4. 歯周病学の視点からみた国民の健康増進 口臭と歯周病（著分担）、211～214、医歯薬出版、2008.
5. 歯周病の検査・診断・治療計画の指針（著分担）、36～42、日本歯周病学会、2008.

＜受賞歴＞

2003年10月 厚生労働大臣表彰